

生活

seikatsu@asahi.com

計測続け変化を見て

高橋千太郎・京大原子炉実験所副所長



大阪府熊取町にある京大原子炉実験所の副所長を務める高橋千太郎教授(58)は放射線の人体や環境への影響などを研究している。

身の回りの放射線量を測る動きをどうみまうか。計測は重要です。計測で、どこに、何が、どれくらいあるのかわかれば、危険度を判断し、線量が高い所には近寄らない、除染をするなど対処法を考えられます。

継続的な測定も有意義です。汚染された土砂や落ち葉が風や雨で動き、線量の高い場所が変わる可能性があります。除染をした場合、取り除いた土や枝の処置は？

まず、地元で自治体と問い合わせてください。しかし、対処方針が決まっていなくてもあると思います。短期であれば、飛び散らないようにシートでまもって覆って近づかない。地面に埋めて、汚染されていない土を厚くかぶせれば、土が放射線を遮ってくれます。放射性セシウムは粘土質と強く結びつく

は漂っておらず、測定されている放射線は、地表に落ちた放射性物質からのものがほとんどです。地上の放射性物質が雨や風で流され、土砂や雨がたまりやすい場所へと集まり、局所的に放射線量が上がります。これが世間でホットスポットなどです。

健康への影響は。その場所の1時間あたりの空間線量と、滞在する時間とをかけ合わせると、被曝線量を計算できます。例えば、道路脇に毎時50マイクロシーベルト以上の地点が見つ

滞在場所	行動	開始時刻	
自宅	睡眠、起床、食事	0:00 (時分)	
通学路	登校(徒歩)	8:00	
学校	校舎	授業	8:20
	校庭	授業(体育)	10:00
	校舎	授業	10:45
	校舎	給食	12:30
	校庭	昼休み	13:00
校舎	授業	13:30	
通学路	下校(徒歩)	14:15	
公園	外遊び	14:35	
自宅	食事、勉強、入浴、就寝	16:00	
一日の合計(各地点の測定値から計算)			

②測定値(1時間あたりの線量)

患者を生きる

1737

感染症

30代の男性は10年前、高熱と呼吸困難で、東京都立駒込病院に入院した。HIVに感染し、体の免疫が極端に下がった時に発症する「ニューモシスチス肺炎」にかかっていた。

まずは合併症の肺炎から治すことになった。抗菌薬を飲むと熱が下がっていった。男性は、妻と子どもへの感染がないかも調べたいと思った。でもそのためには、妻に病名を告げる必要がある。伝えることで、離婚に至る夫婦もいると聞いた。2、3日考えた。

退院後は、毎日数種類の抗HIV薬を飲む。どっさり薬をもらって帰ったら、妻はどう思うだろう。けがをしたとき「傷口に触るな!」と不自然に振る舞うかもしれない。「絶対ばれるな」。早いかわいいの決めた。

主治医の今村顕史さんに相談して、病院で説明の場を持つことにした。体調が回復して退院が近づいたころ、妻に「退院後のことか、先生から話があるから」と伝えた。会議室のような部屋で、妻と並んで座った。

告知…妻の反応怖かった

HIV②

今村さんは、肺炎が良くなったことから話し始めた。自然な口調で「今回の肺炎は抵抗力が低くなるのかもかかると、調べたところ、HIVへの感染が分かりました」と言った。今は治療法が進み、社会復帰も生活も、普通にできると続けた。



HIVと聞いた時、妻は頭が真っ白になった。以前テレビで見たことのある病気について、目の前で医師が話していた。今村さんを見てはいたが、声が聞こえなかった。ぼーっとしていると、生活面

■ご意見・体験は、〈メール〉 iryo-k@asahi.comへ。

医療サイト・アピタルに、意見交換や交流ができる「読者ひろば」を開設しています。

子どもと災害支援 あり方考える

アジア子どもの権利フォーラム

アジア子どもの権利フォーラム日本大会が20、21の両日、東京都内で開かれた。11の国・地域から、NGOや大学の研究者らが参加。災害時にも、子どもの声を聴きながら支援することが重要とする大会宣言を採択した。

大会は、2009年のソウル大会に続き2回目。アジア各国で情報を共有しながら、子どもの権利を保障するのが目的だ。東日本大震災を受け、災害時の子ども支援がテーマの一つとなった。

東洋大社会学部の森田明美教授

は、震災後の状況を報告。国・自治体の支援が学校教育と心のケアに偏り、遊びや仲間づくりといった日常生活が重視されていないと指摘した。福島第一原発事故への対応の遅れにも懸念を示し、「放射能に関するデータを子どもにも理解できるように示すべきだ」と訴えた。ベトナムやインド、中国の研究者やNGOも取り組みを紹介。台風被害の多いベトナムからは、NGOが自治体と連携し、子どもも参加して防災計画を作っているとの報告があった。

料理メモ

揚げふの煮しめ

1人前約220*キロカロリー、塩分2.22*

【主な材料・4人前】 揚げふ1本(50g)、戻した干しシイタケ4枚、小松菜またはカブの葉80g
【作り方】 ふは幅2~3センチに切り、水に10分浸します。鍋に水1カップ、だしのもと小さじ2分の1、砂糖、しょうゆ各大さじ1.5、みりん大さじ

1、ふ、シイタケを入れ、落としぶたをして中火にかけます。煮汁が減ったら、木べらでふを鍋肌に押しつけて煮汁を出しながら煮ます。汁が深さ1センチになったら盛りつけ、残りの煮汁で長さ4センチに切った葉を煮て添えます。(約30分 シイタケの戻し時間は除く)

